



広島大学



Төрийн өмчит
УЛААНБААТАРЫН
ИХ СУРГУУЛЬ

日本とモンゴルの 架け橋

2019

第1回日本語スピーチコンテスト

広島大学モンゴル研究センター編

序

広島大学モンゴル研究センター長
佐藤 暢治

2019年4月27日(土)、モンゴルのウランバートル国立大学にて広島大学とウランバートル国立大学主催による「第1回日本語スピーチコンテスト」が開催された。コンテスト当日には、モンゴルで日本語を学ぶ14名の学生がスピーチをしたが、本書はそのスピーチを作文集としてまとめたものである。

2018年9月、広島大学はウランバートル国立大学内にモンゴルとの学術交流、学生交流の推進を目的に、「広島大学モンゴル研究センター」を設置した。この日本語スピーチコンテストはその第一歩として、記念すべき第1回大会であった。

コンテストのテーマは、「広島についてどのようなことを知っていますか」。このテーマ、来日経験の無い学生にとっては難しいテーマであったかもしれないが、スピーチにも幾度無く登場してきたように、モンゴルと広島には古くからある接点があった。それが、佐々木貞子さんと折り鶴の話である。スピーチにこの佐々木貞子さんと折り鶴の話が出てくることを期待はしていたが、予想以上に多くの学生がこの話をスピーチに取り上げていたのは、広島(ヒロシマ)、そして平和について考えてもらう意味でも、今回のテーマは良かったように思える。

そうこうしているうちに、モンゴルのソーシャルメディアであるMONTSAMEに「広島大学とウランバートル大学主催「第1回日本語スピーチコンテスト」、発表者は命の大切さを訴える」という記事が掲載された。記事の詳細は、<https://montsame.mn/jp/read/190070> をご覧いただくとして、記事の終わりに「世界各地でテロが起きている社会状況の下、日本語学習者がヒロシマを学び、命の大切さを訴えるのは意義深いこと」と記されている。モンゴルのソーシャルメディアに、今回のスピーチコンテストがこのような形で取り上げられたのは意義あることと言えよう。

コンテストの式次第は、以下の通りである。司会は、ウランバートル国立大学の Tsedendamba AMGALAN 先生が務めた。

1. 開会挨拶

Sanjaa BAIGALSAIKHAN (ウランバートル国立大学長)
越智光夫 (広島大学長)

2. 来賓紹介

山田洋平 (在モンゴル日本国大使館)
三本智哉 (モンゴル・日本人材開発センター)

3. 審査員紹介・審査方法

Balsan SERJAV (モンゴル科学アカデミー研究員)
山田洋平 (在モンゴル日本国大使館)
三本智哉 (モンゴル・日本人材開発センター)
佐藤暢治 (広島大学)
岡田泰司 (広島大学)

4. スピーチ

5. 表彰式

6. 閉会挨拶

コンテストでは、その冒頭、ウランバートル国立大学の Sanjaa BAIGALSAIKHAN 学長からの開会挨拶と、広島大学の越智光夫学長からビデオメッセージがあった。その後、14名の学生が流暢な日本語でスピーチを披露し、厳正な審査の結果、第1位にはモンゴル国立大学総合科学学部の Mungunsan OYUNCHIMEG さん、第2位にはモンゴル国立大学法学部の Boldbaatar KHALIUN さん、第3位にはモンゴル国立大学法学部の Muratbek AKHERKE さんが選ばれた。

コンテスト閉会時には、審査員を務めていただいたモンゴル科学アカデミー研究員の Balsan SERJAV 先生からスピーチをした学生たちに暖かい励ましのことばをかけていただいた。SERJAV 先生は、1980年代に大阪外国語大学に留学された日本留学の先駆者でもある。

在モンゴル日本国大使館の山田洋平氏と、モンゴル・日本人材開発セ

ンターの三本智哉氏にも、審査員として参加していただいた。心より感謝の意を表したい。

また、コンテストでレベルの高いスピーチをしてくれた学生、さらには日々学生を指導して下さった先生方にも、改めてお礼を申し上げたい。

コンテストでは、在モンゴル日本国大使館と日本学術振興会北京研究連絡センターから後援をいただいた。感謝の意を表したい。



記念撮影

挨拶

広島大学長 越智 光夫

皆さん、こんにちは。広島大学長の越智光夫です。本日は、第1回日本語スピーチコンテストの開催、誠におめでとうございます。

本日のスピーチ・コンテストのために会場の提供と準備にご支援いただいたウランバートル国立大学、および、ご後援を賜りました在モンゴル日本国大使館の皆様には、心より感謝申し上げます。

本日は直接参加できず残念です。会場で選手の皆さんのスピーチを直接聞くことができませんが、やがて発行される皆さんの作文集を読むことを今から楽しみにしています。

広島大学は、2018年、モンゴルとの学术交流や学生交流を推進することを目的として、ウランバートル国立大学内に「広島大学モンゴル研究センター」を設置しました。このセンターを中心に学生交流および研究者の交流が一層盛んになることを祈っています。

参加される学生の皆さんは、是非とも日頃の学習の成果を十分に発揮して下さい。

広島大学は、高等教育の国際競争力の向上などを目的として創設されたスーパーグローバル大学創成支援事業において、日本の13大学の一つに選ばれた総合研究大学の一つです。

会場にいる学生の皆さん、是非とも広島大学に来て学んで下さい。皆さんと一緒に、広島大学を「100年後にも世界で光り輝く大学」にしていきたいと願っています。

最後になりましたが、本コンテストの開催を支えて下さった全ての皆様に、改めてお礼申し上げるとともに、本コンテストの益々の発展を祈念して、私からの挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

МЭНДЧИЛГЭЭ

Япон улсын Хирошима Их сургуулийн Захирал ОЧИ Мицүо

Сайн байцгаана уу? Намайг ОЧИ Мицүо гэдэг. Хирошима Их сургуулийн захиралын алба хашиж байна.

Энэ өдөр Япон хэлний уран илтгэлийн анхдугаар тэмцээнийг зохион байгуулж байгаад баяр хүргэж, оролцогч оюутнууддаа амжилт хүсье.

Энэхүү уран илтгэлийн тэмцээнийг удирдан зохион байгуулж байгаа Төрийн өмчит Улаанбаатарын Их сургуулийн хамт олон, мөн дэмжигч байгууллагаар оролцож буй Монгол улс дахь Япон улсын Элчин сайдын яамны ажилтнууд та бүхэндээ чин сэтгэлийн талархал илэрхийлж байна.

Миний бие энэ удаагийн арга хэмжээнд биечлэн оролцож чадахгүй байгаа ч, удахгүй хэвлэгдэн гарах та бүхний илтгэл, судалгааны бүтээлийн сэтгүүлийг шимтэн унших болно.

Хирошима Их сургууль 2018 онд Монголын шинжлэх ухаан, эрдэм судлалыг хөгжүүлэх, мөн оюутан солилцооны хөтөлбөрийг дэмжих зорилгоор Төрийн өмчит Улаанбаатарын Их сургуультай хамтран Хирошима Их сургуулийн Монгол дахь Судалгааны Төвөө байгуулсан. Тус Төвийг түшиглэн хөгжих хоёр орны хоорондын оюутан солилцоо болон эрдэм шинжилгээ судалгааны талын хамтын ажиллагаа улам өргөжин тэлнэ гэдэгт итгэлтэй байна.

Энэхүү тэмцээнд оролцогч оюутан залуус та бүхэндээ өндөр амжилт хүсье.

Хирошима Их сургууль нь Японы их дээд сургуулиудын дунд Олон улсын тавцанд өрсөлдөх чадварыг дээшлүүлэх зорилгоор хэрэгжсэн "Супер Глобал сургуулийг хөгжүүлэх төсөл"-д өрсөлдөн, улмаар шалгаран үлдсэн 13 их сургуулийн нэгэнд багтсан томоохон институт сургууль юм.

Энэ өдөр зорин ирсэн оюутнууд та бүхнийг манай Хирошима Их сургуульд ч ирж суралцахыг урьж байна. Та бүхэнтэй хамтдаа Хирошима Их сургуулийг “100 жилийн дараа ч Дэлхийд нэр цуугаа дуурсгасан Их сургууль” байлгахын төлөө хичээн ажиллах хүсэлтэй байгаагаа илэрхийлэхэд таатай байна.

Ингээд та бүхэндээ энэхүү тэмцээнд нь амжилт хүсээд, оролцогчиддоо дахин баяр хүргэж, хамтын ажиллагаа улам бүр өргөжин хөгжихийн ерөөл тавья.

Та бүхэнд баярлалаа.

МЭНДЧИЛГЭЭ

Төрийн өмчит Улаанбаатарын Их сургуулийн Захирал Санжаа БАЙГАЛСАЙХАН

Улаанбаатарын Их сургууль болон Японы Хирошима Их сургууль хамтран тус сургуулийн Монгол дахь Судалгааны төвийг байгуулсан билээ. Энэ удаад тус Төвөөс зохион явуулж буй "Хирошимагийн тухай юу мэдэх вэ?" сэдэвт Япон хэлний Уран илтгэлийн анхдугаар тэмцээнд оролцохоор ирсэн оюутнууддаа, мөн энэхүү тэмцээнийг зохион байгуулсан багш ажилтнууд та бүхэндээ талархалаа илэрхийлэн, нийт оролцогчиддоо амжилт хүсэж байна.

Өнгөрөгч оны Хичээлийн шинэ жилийн нээлтийн үеэр Хирошима Их сургуулийн захирал Очи өөрийн биеэр хүрэлцэн ирж энэхүү Судалгааны төвийг байгуулсан билээ.

Тус Төвийг Улаанбаатарын Их сургууль төдийгүй бусад сургуулийн багш, оюутнууд ч ашиглах боломжтой юм.

Өнөөдөр тус Төвөөс зохион байгуулж буй энэхүү тэмцээнд МУИС, ШУТИС болон бусад Их сургуулиудын оюутнууд хүрэлцэн ирж өргөнөөр оролцож байгаад баяртай байна.

Бид тус Төвийн үйл ажиллагаагаар дамжуулан Япон, Монгол хоёр орны түүх соёлын судалгаа, цаашилбал Азийн олон орнуудыг хамарсан соёлын судалгаа явуулахад түшиг болохуйц газар болно гэдэгт итгэлтэй байна.

Ингээд эрхэм Оролцогч та бүхэндээ амжилт хүсье.

挨拶

ウランバートル国立大学長
Sanjaa BAIGALSAIKHAN

ウランバートル国立大学と広島大学の交流によって、広島大学モンゴル研究センターがウランバートル国立大学に設置されました。そして今回、当センターが初めて開催している「広島についてどのようなことを知っていますか」というテーマによる日本語スピーチコンテストにご参加いただいている学生の皆様や、開催にご協力くださいました教職員方々に心から感謝を表し、ご成功をお祈り致します。

昨年、ウランバートル国立大学の入学式に、広島大学の越智学長がご来訪され、当研究センターを設置されました。当センターは、ウランバートル国立大学に限らず、他大学の教員や学生も自由に利用いただけます。

本日、当センターが開催している「第一回日本語スピーチコンテスト」にはモンゴル国立大学、モンゴル科学技術大学を始め、他のたくさんの大学の学生たちにご参加いただいていることをとても嬉しく思っております。

我々が、当センターを日本とモンゴルの歴史・文化の研究にとどまらず、アジア諸国の文化研究を行う環境として使っていただくことを期待しております。

最後になりますが、ご参加者の皆様のご成功をお祈り申し上げます。

目次

序	広島大学モンゴル研究センター長 佐藤 暢治
挨拶・	広島大学長 越智 光夫
МЭНДЧИЛГЭЭ	ウランバートル国立大学長 Sanjaa BAIGALSAIKHAN

第一位

- 広島について、私が知っていること 1
モンゴル国立大学総合科学学部
Mungunsan OYUNCHIMEG

第二位

- 広島 3
モンゴル国立大学法学部
Boldbaatar KHALIUN

第三位

- 命の大切さ 5
モンゴル国立大学法学部
Muratbek AKHERKE

第四位

- 広島について、どんなことを知っていますか 7
ウランバートル国立大学
Ganbold NOMUN-ERDENE
- お母さん、このノゴータイシユルおいしいね 9
モンゴル国立科学技術大学高専留学プログラム
Altangerel ENKHGEREL
- よみがえった町 11
モンゴル国立科学技術大学ツイニングプログラム
Chuluunbat USUKHBAYAR

- 広島 13
モンゴル国立大学外国語学部
Adiyasuren ENKHDULGUUN
- 広島について、どんなことをしていますか？ 15
モンゴル民族大学
Otgonbaasan GAN-ERDENE
- 広島について、どんなことを知っていますか 16
モンゴル民族大学
Munkhtsog BAASANDORJ
- 広島についてどんなことを知っていますか 18
国際経済ビジネス大学
Batjargal BOLDBAYAR
- 広島 20
チンギス創生国際大学
Bat-Erdene MICHIDMAA
- 広島について、どんな事をしていますか 22
モンゴル人文大学
Enkhtuvshin ENKHZUL
- 広島について、どんなことを知っていますか 23
モンゴル国立科学技術大学外国語研究機構
Munkhbayar PUREVSUREN
- 佐々木禎子 25
チンギス創生国際大学
Erdenabat MYAGMARSUREN

あとがき

広島について、私が知っていること

モンゴル国立大学総合科学学部

Mungunsan OYUNCHIMEG

(指導教員 Erdenebayar BATJARGAL)

広島は、世界で初めて核兵器で爆撃された都市として世間に知られています。だからこそ、広島は国際平和の促進を図るのに一定の影響力が高い都市です。広島市長の発案で創設された「平和市長会議」が世界の国々の四分之三を会わせることが出来たのがその例として挙げられます。私の意見では、広島は平和の象徴であり、「苦勞は必ず報われる」の完璧な例だと思います。

広島市への原子爆弾投下の恐怖は、今でも人類の意識に刻み込まれており、全世界に原子力の恐ろしさと戦争の残酷さを知らせた事件でした。この爆撃以来、人々は戦争での核兵器のさらなる使用を阻止するよう努力するようになり、世界は平和を求め、平和運動はあらゆる場所で行い始めました。及び、広島では、平和を促進するため、そしてあの出来事を忘れさせないための様々の記念碑、彫刻や展示会があり、また、国際的にも影響を与えるためのいろいろなプロジェクトや組織が活動しています。

例えば、「ピース・アーチ・ひろしまプロジェクト」は世界共通言語である音楽を通して世界へ平和のメッセージを送り、平和に貢献するというプロジェクトです。国立音楽院卒業生である私にとってこのアイデアはとても興味深く、新鮮であり、民間人にも影響できる素晴らしい案だと思いました。さらに、国際理解の促進を図ることで世界の平和と繁栄のために貢献する「ひろしま国際センター」も、国際関係学部の学生である私に「モンゴルでもこんな組織を立てたい」と思わせました。そして、自分の国の被害者だけにではなく、世界中の被爆者にも手を伸ばす組織「HICARE」も強い印象を残しました。このように広島は様々な組織を通じ積極的に平和を推進している都市です。

そして広島市は歴史上、最も破壊的な災難に遭遇しましたが、その災難を乗り越え、今は活気に満ちた近代的な都市となり、原子力発電に関

するあらゆる国際会議が開催される平和の都市と呼ばれる場所になりました。美しい自然、歴史的展示やお城、華やかな神社や豪華な料理まで、すべてがそろった素晴らしいところです。ですが、この回復は魔法のように一日に組み立てたものではありません。これらは多くの人々の長年の努力や奮闘によってやっと築きあがったのです。だからこそ私は、広島を、「苦勞は必ず報われる」の完璧な例だと思っています。

最後に、皆さんは「キョウチクトウ」という花をご存知でしょうか。この花は広島市の公式な花であり、原爆投下後「75年間、何も植えないかもしれない」と言われるほど酷い状況の中でもこの花はいち早く蘇って、市民に復興への勇気と元気、そして何よりも希望を与えた花なのです。ですので、私は、人々が広島やキョウチクトウを例に何があっても希望を失わずに、常に一生懸命努力していけば必ず報われることを信じてせいいっぱい生きて欲しいと思います。

広島

モンゴル国立大学法学部

Boldbaatar KHALIUN

(指導教員 八尾由希子)

広島と言えば、誰でも原爆のことを思い出します。もしその日原爆がなかったら、もしその日黒い雨が降らなかったら、今の時代まで生きられている誰かがいたはずです。人の命は何よりも大切です。しかし、人々の心にいつまでも生きている人もいます。それも大切です。その人の名前は貞子ちゃんです。

私は広島の前爆について前から聞いたことがありましたが、貞子ちゃんについてはモンゴルのテレビ番組で2年前に知りました。そのとき、貞子ちゃんの折りづるの歌を初めて聞きました。何も分からなくても涙が出てきました。でも、私以外だれも泣きませんでした。なぜかというところ、両親はその歌を昔から知っていたからです。子どものころ、先生が教えてくれた歌詞もよく知っていたのでびっくりしました。

両親が子どものころ、モンゴルと日本の関係はあまり良くなかったです。なぜなら、1939年にモンゴルは日本と戦争をしました。ノモンハン事件はモンゴルでは「ハルハ河戦争」の名前で誰もが知っていますが、日本人はあまり知らないかもしれません。また、1945年に戦争が終わってからは、アメリカや日本は資本主義の国で、ロシアやモンゴルは社会主義の国なので、敵の関係でした。そのように関係が悪かったのに、なんで貞子ちゃんについての歌を1978年にモンゴル人が作ったのか、モンゴル人は誰でも聞いたら知っているのか、私は不思議に思いました。

貞子ちゃんは、ずっと病気で苦しんでいたけれど、治ると信じていた10歳の女の子。治るためにいつも折り紙でつるを作っていました。戦争の後で紙も見つからなくて、とても難しかったと思いますが、毎日紙を探しました。入院している他の人たちから紙をもらったり、自分の飲んでいる薬の紙も使ったりしたそうです。かわいそうな貞子ちゃんは1,000 ばのつるを作ったら病気が治るとい昔の話を信じて心を込めて作っていましたが、残念ながら夢はかないませんでした。しかし、貞子

ちゃんの夢は世界中に伝わって、たくさんの人々が手伝ってくれました。貞子ちゃんの夢は自分の体がよくなるだけではなくて、戦争も私で終わらせてくださいという強い気持ちがありました。その気持ちが、モンゴル人にも伝わったのだと、私は分かりました。関係が悪かった日本とモンゴルの状態も、この歌を聞いて少しだけ変わったと思います。

社会主義の時代には、「貞子ちゃんのおりづる」しか知らなかったモンゴルですが、今は、日本と親密な関係になりました。現在、モンゴルには日本語を勉強している人たちも増えています。勉強するだけではなくて、日本で働きたいという人たちも増えています。モンゴルには日本の学校や日本の店や飲食店も入ってきました。

政治の形や文化が違って、人々の心は同じです。いつの時代でも、どこに住んでいる人でも、平和を祈る気持ちは分かりあえます。人は人なので、誰かが誰かを支配することもできますが、心や信頼を変えるのは難しいと思います。第二次世界大戦の後、モンゴルと日本が戦争をしないで、関係がよくなったのは、広島の子ちゃんのおかげです。貞子ちゃんは世界の平和の橋になったと思います。しかし、今でも貞子ちゃんのようになりそうな子どもたちが世界にはいます。私たちは広島の子ちゃんのことを忘れずに、他の国々の人や、子どもたちに伝えていく必要があります。

命の大切さ

モンゴル国立大学法学部

Muratbek AKHERKE

(指導教員 伊藤頼子)

皆さんに一つ聞きたいことがあります。人生が意味なく思われ、この世を去りたかったことがありますか。

自分にしか救えない大切な命を終わらせたい人がいれば、一方、どうしても行きたい人もいます。生まれて来たこと、育ててもらえたことを考えずに死にたいというのは何でしょうか。

いきなり重い話ですみません。世界では毎年平均 100 万人が自殺しており、言い換えると 40 秒に 1 人が自殺していることになります。2020 年にはそれが 20 秒に 1 人になるという予想もあります。そして、自殺未遂者は自殺者の数より 20 倍も多いそうです。最新統計では 10 万人あたりの自殺者の数がモンゴルは世界 3 位です。それは驚くほどの数です。

皆さんびっくりするかもしれませんが、私も自殺未遂者の一人です。自殺をしようと 4 年間も考えて来ました。悩んで一人で静かに考えていると、いつも自殺することを考えてしまっていました。私の問題は自己肯定感が低いことに密接に関連していますが、具体的な理由は秘密にしておきたいと思います。自殺は悪い、恥ずかしい、馬鹿なことだと否定しようとしても、どうしてもその考えを辞めることができませんでした。

去年の 2 月ごろ、毎回のような悩みの一日がやっと終わり、部屋の中で、一人で考えようとする長い夜を過ごしていました。考えて、考えて、どうすればいいのかわからなくなって、最後、泣きながら心臓の薬を何十錠ものみしました。

そのあと何があったのかは分かりません。今思うと幸いなことに自殺は失敗しました。目が覚めると、耳が良く聞こえない、耳の中にザーという音がし、激しい頭痛がする状態でした。しかし、そんなひどい経験までしても、私は死にたいという思いを止めることができませんでした。

そんなある日、フェイスブックで流れてきた広島市の被爆者に関するビデオと紹介を見ました。そこで初めて広島平和記念公園にある「原爆の

子の像」のモデルとなった佐々木禎子について私は知りました。貞子は、2歳のとき被爆しましたがけがもしないで元気に成長していました。ところが、12歳のとき突然病気になりました。そこで自分の病気を知った貞子は、回復を祈って包み紙などで折り鶴を折り続けていました。毎日、毎日泣きながら祈りを続けて、千羽に届いたら「暖かい家に戻れる」と信じていました。しかし、残念なことに夢が叶うことはありませんでした。生きたくも命を奪われた、たくさんの被爆者たち、その中の貞子の話にはとても感動し、自分がずっと死にたいと思っていたことを、顔が真っ赤になるほど恥ずかしいと思いました。なぜなら、貞子の人生に比べて、私の問題としていたことは実は問題ではなかったからです。そして貞子にありがとうと言いたくなりました。貞子のことを読んでから命の大切さがわかり、死にたいということを全然考えなくなりました。

今、私たちの中に人生に飽きている人がいるかもしれません。誰にも言えない悩みがある人がいるでしょう？ モンゴルの自殺者はおとなしくて、周りの人に自分の悩みを話せない性格の人が多いそうです。どうしても解決できないと思ったとき、生きたくても生きられなかった貞子のことを思い出してください。大切なのはあなたの命です。私は広島の貞子から命の大切さを学びました。

広島について、どんなことを知っていますか

ウランバートル国立大学

Ganbold NOMUN-ERDENE

(指導教員 Lkhamjav ERDENETSETSEG)

日本国、広島市と言うと皆さんまず第一に何を思われますか？ もしかして、原爆が落とされたことと、モンゴル人によく知られているオユンナさんの歌った「折り鶴」の歌などを想像するでしょうか。日本国の発展、文化に興味があって日本語を習い始める前から、広島市がどんな町になったのか？ 人々がどのように暮らしているのか？ その苦しみをどうやって乗り越えたのか？ といつも考えていました。インターネットで広島市について見ると、ほとんど燃え崩れた建物、放射線に毒された様子などがあって、見れなくて涙が出ました。目で見ていない、身体で苦しんでいない私にとって考えられないことでした。困難を克服した日本人がどれぐらい大変だったかは、言葉で言えないでしょう。

2019年2月、JASSO奨学金を得て、「広島大学日本語・日本文化特別研修」に参加する機会がありました。広島空港に到着して、広島は私の想像と違って、想像があっという間に消えました。そのとたん、私はハリーポッターに出てくる灰の中から生まれ変わるフェニックスを見たかのようにになりました。人間の手によって作られたあれで熱い灰になっていた広島市が人間の手によって生まれ変わっていました。

2週間の間、インドネシア、インド、リトアニアから参加している学生たちと日本文化について研修し、広島市内観光、宮島、原爆ドームなどを見学することもできて本当に嬉しかったです。いい体験でした。

見学した中に平和博物館がありました。博物館の玄関に今の時間とともに、1945年8月6日の人間が人間に原爆を落とした歴史的な証拠として8時15分を指している時計がありました。

博物館に展示されている物は世界のどこにも行っていない、何が起きたかも知らない、何も感じない人でさえも理解させるものだと思います。

私たちは広島大学の寮にいて、毎日学校で日本語を習い、日本の大学生活を味わうチャンスがありました。広島大学の環境、建物、学生たち

は素晴らしいです。

これからもこの研修に学生たちが参加し、知識を得て、広島市についてもっと知って欲しいです。世界で広島市の市民が体験したひどい脅威を忘れないでください。広島というと崩壊した市という考えはすでになくなりました。現在の新しい時代、若者が発展のために学び、勤め、暮らしています。

広島について聞かれると、灰の中から生まれ変わるフェニックスのような発展を考えます。

最後に、世界を変えるには魔法は必要ではありません。必要なのはただ平和を願っていくことでしょう。広島市民・日本人が言葉で表すことのできない苦しみを乗り越えて、発展されたことを誇りに思います。

お母さん、このノゴータイシユルおいしいね

モンゴル科学技術大学高専留学プログラム

Altangerel ENKHGEREL

(指導教員 桜井ちよこ)

その日食べた母の作った野菜スープは世界で一番おいしく感じました。「何か特別なスパイスでも入れたの？」と母に聞くと「何言ってるのいつもと同じただのスープだよ」と答えました。

故郷に帰った時に家族みんなでテーブルを囲んで、その日何があったを話し、声を上げて笑う、可愛い妹にご飯を食べさせて上げる。ご飯はすぐになくなり、もう一杯おかわりして食べたものです。

家族一緒に食べるご飯はおいしくて、温かいです。今私の毎日のご飯は味が全然違います。私は今一人で住んでるからです。夕食をすまして、すぐに勉強するので、あまり味に気がつきません。

私たちにとって大好きな人たちとご飯を食べるのは普通なことですから、それが幸せだということに気がつかないで暮らしていたのかもしれませんが。そんな普通の小さな幸せが普通でなかった時代があったことを「この世界の片隅に」というアニメを見て知りました。

主人公は絵を描くことが大好きなすずという女性です。彼女は結婚して、広島から呉に引っ越して来ましたが、戦争は始まっていたが、家族と一緒に毎日食事が出来て彼女は幸せでした。しかし、ある日、爆弾で絵を描く右手と大好きな姪のはるみちゃんを失ってしまいました。

さらに、広島に原爆が投下されました。両親や兄弟と連絡が取れなくなり、夫のお父さんも戻って来ません。すずは悲しみながら暮らしていました。

そのアニメで、一番私の心に残っているのは、戦争が終わって、夫のお父さんも戻って来て、皆そろってご飯を食べる場面です。戦争中は光が漏れないように、黒い電気の隠しをしていたのを、その日、初めて取りました。すずの家から出た光を見て、他の家も電気をつけて行きました。夜の街がパーンとお花畑のようになり、やっと平和な日が戻って来たのだと嬉しくなりました。

私は、呉に留学してる先輩と話しました。広島に住む日本人は「あの時代は最もつらい時代だったので、今でもあの時の傷は心に残っている」と言っていたそうです。

また、あるアメリカ人からは「僕の国が原爆を落としたと思うのは苦しい。国の代わりに謝りたい」という言葉も聞いたそうです。これは戦争の悲しさを表していると思います。被害を受けた側だけでなく、与えた側も悩みを抱えます。私は戦争を体験していませんが、戦争は嫌だということをアニメを通じて心から感じました。

そのアニメでは、すずが広島で拾って育てた小さい子どもが成長して、すずにドレスを作ってあげるシーンがあります。それは、日本人がどんなにつらいことがあっても諦めないで元気に生きてきたということを表していると思いました。

幸せな暮らしを奪う戦争は二度とあってはいけないと思います。私はアニメが好きですから、少しでも原爆や戦争の悲惨さを知らせるために、アニメのことを友達に話していきたいと思います。

よみがえった町

モンゴル科学技術大学ツイニングプログラム

Chuluunbat USUKHBAYAR

(指導教員 山本賀奈子)

皆さん、広島という言葉を聞くと、最初に何を思いますか。この質問に原子爆発の暴露とか、戦争と答える人が多いのではないのでしょうか。人々がこのように答えるのは第二次世界大戦のとき、アメリカ軍が広島に世界で初めて原子爆発を落として多くの被害を与えたからです。

私もこのようなイメージを持っていました。しかし、広島県について調べて見るとイメージが変わりました。それは、広島県民の性格についてです。この県民には三つのタイプの人が多いそうです。一つ目は、派手で楽しいことが大好きだということです。真面目な人だと思っていましたが、広島県民はお祭りで遊んだり、派手で楽しいことをしているということが分かって驚きました。そればかりではなく、生活費を切り詰めて、ギャンブルなどの遊びの費やしてしまうことが多いそうです。また、車などのお金をかける人も多くて、全国でも自動車購入率が高いというデータがありました。

二つは、地元愛が強いということです。この県民は広島を離れても、いつまでも広島県民だという誇りがあって、地元愛を忘れないタイプの人非常に多いそうです。そして、この県民の地元愛を表しているものの一つが、広島カープという野球のチームです。このチームはとても強くて、まとまっていて、優勝が続いたおかげで広島の町が元気になっているみたいです。チームが不振な時は町全体で応援して、チームが勢いに乗れば町全体が盛り上がりを見せるそうです。

三つ目は、広島県民は負けず嫌いだということです。この県民は習い事に使うお金ランキングが高いです。それは他人より早く何かを身に付けたいという気持ちが強いからです。そして、負けず嫌いの性格は一つ目の性格にも、二つ目の性格にもつながっていると思います。例えば、何かを負けた人は勝つまでお金を気にしないで続けてしまったり、また、広島カープの調子が悪いとき悲しくなるのも自分が負けず嫌いの性格に

この二つの性格が含まれているのです。

では、なぜ広島にはこのような性格を持つ人が多いのでしょうか。それは第二次世界大戦の原子爆発と関係があると思います。私の考えでは、広島県民は苦勞をしたのかもしれません。誰でも、遊んでいるとき悲しいことを考えないからです。そして、一度、広島市は壊れされてしまったので、県民はまた町を失わないように地元を愛して広島に危ないことを近づけないようにしていると思います。さらに、広島県民の負けず嫌いな性格はこの県の発展の基になっているのではないのでしょうか。なぜなら、昔は、一二棟の建物しか残っていなかった町が、現在では、日本の政令指定都市の一つになっているからです。つまり、広島の悲しい歴史が県民をこのような性格にしたのだということです。

負けず嫌いで、地元愛が強く、派手で楽しいことが大好きだという話をしましたが、この派手で楽しいことが大好きな広島県民のお祭りにはだか祭りという男性たちが裸で参加する伝統的なお祭りがあります。このお祭りに参加した人は再び生まれ変わるといわれているそうです。このお祭りビデオを見た時、たくさんの男性が集まっている中心で何か面白いことをしているようでしたが、何をしているかが分からなかったので、ぜひ広島へ行ってこのお祭りに参加したいです。そして、生まれ変わることができるなら、今より背が高く、頭がいい人のなって生まれたいと思います。

広島

モンゴル国立大学外国語学部

Adiyasuren ENKHDULGUUN

(指導教員 Batjantsan Khishigdelger)

こんにちは

今日は、このように大勢の皆様の前で、話をさせていただく機会をいただき、大変嬉しく思います。エンフドウルゴウンと申します。よろしくをお願いします。

広島という言葉を聞くと、わたしたちの脳の中で同じ想像が浮かんでくることでしょう。それは 74 年前の明るく晴れ渡った朝、空から死神が舞い降りたことです。リトルボーイ原子爆弾の圧迫に数千人の夢が消えてしまったことが、目には見えないが鮮明に感じられます。被爆当時、広島には約 35 万人の市民や軍人がいたと言われています。放射線による急性障害が一応おさまった、昭和 20 年、12 月末までに、約 14 万人が死亡したと推計されています。残念ながら放射性物質の有害な影響は、一度の被爆で完結するものではありません。場合によっては、遺伝子を通して私たちよりも長生きします。

今日、放射性物質の脅威はモンゴルにもあります。モンゴルでは放射性物質を安全に処理する政策やその実施が充実していないと思います。だから、日ごろ私たちにはわかりませんが、現場で不正な探査や採掘は随時行われています。私の友人であるムンフエルデネさんは、ドルノゴビ県出身で真面目な学生です。フランスのアレバグループが 2011 年ごろから友人の家族が住んでいるウランバドraf郡に、ウランを探査するためにやってきました。その探査のせいで 2 ヶ月前に友人の近隣の遊牧民のうちに 8 本足の子山羊が生まれました。私の友人の家族みんなが 1 年後に生まれてくる赤ちゃんを待っていますが、その赤ちゃんが無事に生まれるかどうかと戦々恐々としています。ある日、友人のムンフエルデネさんが「近隣の遊牧民のうちに 8 本足の子山羊が生まれたのと同じように、赤ちゃんが 8 つの手を持って生まれてきたらと思うのが怖い」と、投げかわしい声で言い出しました。

この話をきっかけに、私はウランについて検索して見ました。すると、モンゴル科学技術大学の応用物理学教授や原子核物理学者が「私たちは何百年間もウランの上で暮らし続けてきました。自然のウランは危険じゃありません。しかし、ウランを使用するために抽出し、さらに黄色粉末に加工することに際しては、アルファ線の普及を重要視すべきです」と述べたインタビューがありました。このことについて、今まで気づかなかった私は始めて真剣に考えて見ました。わたしの考えでは、モンゴルにウランは必要ないでしょう。私たちはいつ死ぬのかわかりません。しかし、健康な赤ちゃんの笑っている顔を見て、人生の残り時間を過ごすために生きているのです。人間はこれ以上望むものはありません。今まで、アメリカや北朝鮮は核兵器の実験を行ってきました。その実験を戦争が起こったら国を守るための準備と説明しています。しかし、この準備は何のため、何を待っているのですか。戦争ですか。

不幸な終わりは終わりではありません。一言、言おう。簡単に収める成功はありません。成功はビジョンを通して届きます。もしそうなら、ビジョンは魂の傷から来るのです。貧弱であることが私の傷であれば、金持ちになることは私のビジョンです。この原則に従って現在の広島は成長してきました。広島歴史や市民の悲しみが今日の快適な広島を作り出したと思います。今、広島には世界有数の製造技術があり、鉄鋼、化学などの素材産業から電気機械、精密機械まで、幅広い分野の300社を超えるユニークなリーディングカンパニーがあります。広島市民は幸せで楽しく暮らしています。世界もこの広島によって一変しました。広島のおかげで、我々は戦争を忘れて、平和という言葉を尊敬するようになりました。したがって、広島との関係を深め、開発から学ぶ必要があると思います。そういうわけで、私は今日のスピーチコンテストに参加しました。

ご清聴ありがとうございました。

広島について、どんなことをしていますか？

モンゴル民族大学

Otgonbaasan GAN-ERDENE

(指導教員 Damdinjav BALJINNYAM)

広島について、どんなことをしていますか？ 広島と聞くと知らない人はいないと思います。書く前に、もし、「私はその時代に日本人だったらどう生きていたかな」とか「家族もどう生活をしていたのかな」と思ってみました。

本当に怖い、思い出だけでおそろしい気持ちになりました。地球上に日常生活が続いていましたが、1945年8月6日に、だれもそのおそろしいことに会おうと夢だに思わなかったでしょう。広島に原爆が投下されたことは世界中に放送されました。例えば、アメリカの放送では、「爆弾により広島は、ほとんど全滅または全焼し、死傷者9万人に及ぶものと推定される」と、またそのときの昭和天皇が「広島が全滅した」ことを知らせると、人々はおびえを感じました。その時、数万人が死亡して日本文化遺産に入った所も全滅し、一人、二人ではなくおおぜいの人が命を失って、子供やお年寄りなど、全く関係のない方々が犠牲になったのです。

みんなは最後の日とは知らなかった。その日はいい天気、目をさました若い子、畑の中で仕事しながらしゃべるおじいさん、おばあさんたち、就職したばかりの若もの、今日死ぬって想像もしなかったことでしょう。また好きな人を買ったプレゼントをあげられない。子供たちは「行って来ます」と出かけまま帰ってこなかった。その子供らのお父さんは家族の命を守れなかった。原爆の残酷さとそれをもらした戦争は人類や各国、私たちが生活している世界にどのぐらいのひがいを起こしたのか想像できません。

でも広島であった爆発は世界に広い平和の道を作ったと私は思います。この世界に安心といわれる社会を作るためにみんなで頑張りましょう。

広島について、どんなことを知っていますか

モンゴル民族大学

Munkhtsog BAASANDORJ

(指導教員 Damdinjav BALJINNYAM)

小さい時から日本について色々なことを読んだり、見たりしました。広島についても読んだことがあります。広島には原爆が投下されたことは知っていますが、原爆によって広島の街は焼き野原となり、多くの命が奪われ、多くの人が家族や家を失い、体に傷を負ったなど恐ろしいことを「広島」とか「広島 70 年」という記録映画を観るまでは知りませんでした。この記録映画を観て血の気が引くほど怖かった。

原爆が落とされた後、「助けて」と泣き叫びながら倒れる子供、うちの子はどこ？と探し続ける親、「骨を焼いて喪ってください」と頼む人の皮膚が剥がれ落ち、腕の肉がない姿、倒壊された建物の中から助けを求める声、かぼちゃのように腫れあがった顔や目が飛び出ている人、焼けて亡くなった妹を抱いて「起きて、起きて」と叫んでいる男の子など苦しみの海となった現場をみると戦争というものの恐ろしさ、悲惨さをあらためて知りました。

当時の広島はまるで地獄のような世界になりました。あんな状況での苦しみ、悲しみをどうやって耐えられるのか想像もできません。

一回の原爆投下で 15 万人が死傷しました。そしてなんとか生き延びた人々は心と体に深い傷を負って今も放射線の後遺症に苦しんでいます。

佐々木禎子ちゃんは 2 歳のときに被爆したが外傷はなく、その後元気に成長したが 10 年後に白血病でなくなりました。この少女の物語についてみんなよくご存じだと思います。

モンゴル歌手オユンナさんはこの少女のために「広島の少女の折鶴」という歌を 1978 年に作りました。モンゴルの子供達もこの歌を聞いて原爆と戦争の恐ろしさや命の大切さを理解するようになりました。

けれども今は、広島は人々の笑顔があふれる街になりました。草や木であふれる緑いっぱいの街になりました。

また、原爆で命を落とした人々を追悼する慰霊碑施設、博物館、平和の鐘、原爆が落ちた時に崩壊された建物をそのままに残してあることや、爆撃の直後に撮影された写真が「御幸橋」という橋に展示されており、それらから当時の様子を知ることができます。それは、若い世代に「忘れてはいけないよ」というメッセージで作られたのです。絶対に忘れてはなりません。

現在の広島県の発展には心から感動しました。

その時、みんながあきらめてしまっていたら、将来の希望を捨てていたら、また苦しい中で必死に生きてきた人々がいなければ今の広島はないと思います。

私は世界にこのようなことが二度と起こらないように心より祈っております。

広島についてどんなことを知っていますか

国際経済ビジネス大学

Batjargal BOLDBAYAR

(指導教員 Bayaraa MUNKHDUL)

広島県は中国地方の真ん中にいちするとどうふけんの一つで、せとなにかいに面している、気候がおだやかで過ごしやすいしぜんかんきょうに囲まれた街です。

広島県の人口は、やく二百八十一万九千九百六十二人（二千十八年げんざい）、広島市の人口は百二十万人で全国だい十位の大きな街です。しぜんが大変ゆたかで、昔からのうぎょうとぎょぎょうも盛んな街の一つです。

広島ということばを聞くと、世界で二つしかない被ばくちの一つを思い出します。広島とながさき。世の中では、げんしばくだんとうかについて、みんなが知っていると思います。

千九百四十五年八月六日午前八時一五分にアメリカのばくげききB二十九により世界初のげんしばくだん「リトル・ボーイ」がとうかされました。

リトル・ボーイは広島市なかじまちょうの近くでばくはつを起こしました。しばうしゃすうは、じつに十四万人をかぞえ、いっぱつのばくだんによるひがいとしてはもっとも大きな負の記録としてげんざいまでのこっています。

広島を訪れると、平和への願いをとどける県民のくらしをかんじることが出来ます。平和きねんこうえんをはじめとする平和へのメッセージをかんじとることが出来るばしょが沢山あります。

例えば、平和の街「広島」、平和へのともしびと平和のいけ、宮島、げんばくの子のぞうなどです。

佐々木さだこは、日本の広島市に住んでいたげんばくのひがいしゃの少女で、広島平和きねんこうえんにあるげんばくの子のぞうのモデルにもなっています。モンゴルでは、さだこさんについて良く知っています。なぜなれば、さだこさんのきねんとしてモンゴルのさっかの作った歌が

あります。この歌は人気がある歌です。

歌の内容は「折り紙でせんぱづるを折れば元気になる。六大陸の子供たちがそれぞれおりづるを送ればさだこさんが元気になる」というものです。私は中学生の時、歌ったことがあります。だから、さだこさんのことをすごく気にしていました。モンゴルでは、折り紙でつるを作る子供たちが多いです。

私は日本語が好きだから、もっと日本のことを知りたいです。もちろん日本語を上手になればなりません。いつか必ず日本へ行って、自分の目で日本の文化としゅうかんとれきしのことを真面目に勉強しようと思います。

もし、私に日本へ行くチャンスがあれば、広島県の平和きねんこうえんと宮島とげんぱくの子のぞうを見に行きます。

最後に「全世界で戦争が無いように、平和で仲良く幸せにくらすように皆でがんばりましょう」と言いたいです。

広島

チンギス創生国際大学

Bat-Erdene MICHIDMAA

(指導教員 Lkhagva SUVDMAA)

8時15分 地球上のあらゆる場所にいるすべての人がそれが何であるかを知ったのは1945年8月6日の午後8時15分でした。自ら目にし、体験していなくても、それを見て、この話を伝えるために読んでください。

今でも核兵器は世界にあり、日本国民はその脅威を深く懸念しています。大変な苦難を経験した広島の人々は核兵器がどれだけ非人道的であるかを知っています。

松井市長は「世界に害をもたらす爆撃による市民の恐怖の記憶を語り継ぎ、世界の平和を維持することが私たちの願いです」と言いました。

今でも当時の地獄を見た人々は忘れられない出来事です。1945年8月6日午前8時15分、第二次世界大戦の終盤、アメリカは広島と長崎に原爆を投下しました。アメリカの爆撃機 B-29 やエノラ・ゲイが、広島の上空で60 kgのリトルボーイを投下し、地上600メートルで爆発し、およそ8万人以上が亡くなりました。

では、なぜ1945年にアメリカが日本に核兵器を投下したのでしょうか。アルペロヴィッツをはじめとする数人は、核爆弾を対ソ連に対する威嚇になるよう意図していたが、日本に投下するつもりはなかったと言います。アメリカが核爆弾を使用した結果、日本軍の、1930年代からアジアで始まり、真珠湾へと続いて行った軍事的拡大を止めました。リチャード・フランクはその研究で、アメリカ人が日本を攻撃した場合、何千人もの日本人が飢餓で死亡すると書いています。

1945年以来、世界は二度とそのようなひどい事件を見ていません。核爆弾を使用することによる影響がある可能性があるため、おそらく国際原爆が核爆弾に与える影響。これが再び起こらないことを願っています。

ロバート・オッペンハイマーは、広島と長崎で核爆弾を製造するための主要プロジェクトを指揮しました。広島での原爆が爆発したとき、空は

崩壊し、地球は揺れ、そして海は沸騰しました。大規模な火災の中で、建物は崩れ、人々は立ちつくしていました。人々は火で焼かれました。大きな混乱の中にいました。

このような悲惨な出来事の後、広島は急速に発展していきました。誰もが何が起きたのかを見るために、博物館を訪れて記念碑を見ます。広島は今のように素晴らしい街だったでしょう。世界で二度とこのような事が起こらないことを願います。亡くなった人たちのために広島の慰霊碑にお参りしましょう。

広島について、どんな事をしていますか

モンゴル人文大学

Enkhtuvshin ENKHZUL

(指導教員 Luvsanjamts SURENBAATAR)

皆さん、広島県って知っていますか。私は広島の光とかげについてお話したいです。

まずは広島の影です。広島は世界中で原爆が投下された町と知られています。

1945年8月9日は広島と長崎に原爆投下された寂しい日です。原爆は600メートル高さに爆発してたくさんの人たちが燃えて、酸性雨をのんで死んでいたそうです。原爆より生き残った人たちは原爆による病気になりました。

また、原爆被害で広島県の町がこわれて、爆発の中心から3ミルまでの建物が倒れ、鉄や石などが溶けていたそうです。原爆の時、20万7千人の人たちがお亡くなられたと聞いています。

現在、世界でアメリカ、フランス、イギリス、イスラエル、ロシア、中国、インド、韓国、パキスタンなど9つの国が2万3千の原爆を持っているそうです。

この原爆は何に使うのでしょうか。そのお金は困っている人たちのために使ってほしいです。私は戦争なく、世界中で平和が広がることを願っています。

次は広島の光です。広島県は雪がきれいで、たくさんスキー場があるそうです。また、広島お好み焼きは日本一のおいしいそうです。自然はすばらしくて観光地として有名だと聞いています。原爆ドームとつくしまじんじゃなどの写真を見たことがあります。

私は花火が大好きです。広島のみやじま花火大会は若者には人気があるそうです。ぜひ、行って見たいです。

最後になりますが、私にとっては広島は遠くて心に近い美しい島と海です。世界中の人たちが集まる平和の町です。皆さん、いつか広島でお会いしましょう。

広島について、どんなことを知っていますか

モンゴル国立科学技術大学外国語研究機構

Munkhbayar PUREVSUREN

(指導教員 Baatarkhuu UNDARMAA)

広島と聞いた時には原爆を思い出しました。私は、ほとんどの人のように原爆について聞いています。今年二月、ふと広島へ行くチャンスができました。本当に嬉しかったです。広島についてイメージがとぼしいからどんな町でしょうかといろいろ思いました。飛行機に乗った時から、人々は親切でした。

はじめに行った場所は、広島平和記念資料館でした。そこは被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料を収集、展示とともに、広島の前爆後の歩みや核時代の状況などについて紹介されていました。資料の一つ一つが人々の苦しみや悲しみを訴えています。写真一枚ずつに説明がありました。その時、はじめて目にしましたから、本当に大変でした。

日本三景の一つ宮島は、瀬戸内海国立公園にある厳島神社を始め、文化遺産、天然記念物に指定されている弥山原始林など文化遺産と自然が豊かな島です。潮が満ちてくると大鳳は海に浮かんでいるように見えます。島を見ながら水の音を聞くのは本当にいい気持ちです。もう一つは鹿です。大小のたくさん鹿がいました。私は鹿と一緒に旅行しました。なぜならデザートを与えたから私についてきました。環境と雰囲気は映画のように見えました。周りを歩くと、商店街、店などすべてがありました。商店街でカキを食べました。とっても美味しかったけど、夜に胃が痛くなり、本当に怖かったです。宮島には見どころがたくさんありました。しかし時間がなかったから、いくつか見ませんでした。ちょっと悲しかったです。

瀬戸内海国立公園の仙酔島、福山、鞆の浦沼名前神社へ行きました。とても楽しかったです。別の場所は江戸時代の広島城です。そこには、その時代の生活を紹介する侍の服、着物などたくさんのものでありました。私は侍の服を着たが、重いから疲れしました。屋根の上に望遠鏡がありました。気に入りました。忘れてはいけないもう一つ重要なことは広

島大学です。広島大学は昭和 24 年に旧制度の大学といくつかの高等教育機関を母体として創設された大学です。その後、新たな学部や研究、教育施設を加え、12 学部、大学院研究科、研究所のほか、教育研施設、病院などがある全国でも有数の総合大学です。広島大学は本当に大きく、まいごになってしまうくらいです。教室の改善がよく、木に囲まれています。どこでも学生たちが自動車に乗っていました。食べ物は美味しいものがたくさんありました。県民のソウルフード「お好み焼き」抜きに広島グルメは語れない！ 薄く伸ばした生地、キャベツ、豚肉、そばや卵を層になるよう重ねて焼き上げるのが特徴です。

もう一つはもみじのおかしです。葉っぱのような形でオレンジ色をしています。また、もみじ饅頭は種類がとっても豊富。クリーム、チョコ、抹茶を始め、季節限定商品を含めると、なんと約 20 種類にも及ぶとか。しかしモンゴル人は毎日牛肉を食べますから、ちょっと難しかったです。日本料理はだいたい鶏肉、魚、豚肉ですから、牛肉を食べませんでした。空港の近くに三景園という公園があります。そこは本当に美しい場所です。桜の木、池、滝といろいろな魚、コーヒショップがあります。もし、私は広島に行っていなかったら、それらを知ることができませんでした。その時代の国民の努力で現代の日本と広島を立て直したと思います。本当に強い親切、一生懸命働く人たちです。

佐々木禎子

チンギス創生国際大学

Erdenabat MYAGMARSUREN

(指導教員 Lkhagva SUVDMAA)

「広島の子」は、広島で被爆した佐々木禎子の記念碑のために、1970年代初頭に歌手オユントゥルフルによって歌われました。

なぜ人類には戦争があるのでしょうか。核兵器はどれほどの恐ろしい結果をもたらしたのでしょうか。ご存知のように、広島は原爆の攻撃を受けています。この恐ろしい事件は1945年8月15日、広島市で起こりました。何万人もの人々が亡くなり、重傷を負いました。広島は墓場のようでした。この時、多くの人々が被爆した中で、2歳の女の子はけがをしませんでした。母親はけがをしていましたが、当時は禎子に病気の兆候は見られませんでした。これは "幸運" です。しかし残念なことに、避難した先で危険な放射性物質を含む「黒い雨」に濡れて、少女の悲しい人生は始まりました。

9年後の1954年、少女の首と耳に腫瘍が現れ始めました。癌と診断された禎子は入院しました。病気に苦しむ貧しい少女への有害な放射線の影響は何でしょうか、どうすればいいでしょうか、どうすれば彼女を癒すことができるでしょうか。禎子は折り紙で千羽鶴を折れば元気になると信じて折り続けました。小さな女の子の希望の光となり、八ヶ月の闘病生活の支えとなりました。二度と戦争にならないよう、平和な世界で生きたいという願いを込めて彼女は最後まで薬の包み紙で鶴を折り続けました。彼女は亡くなるまで1300羽以上を作っていました。

8月6日、原爆の子の像は何千もの折り鶴で覆われています。核兵器のない世界になることは、すべての人にとって喜ばしい事です。

あとがき

モンゴルから日本への留学を希望している学生たちは多い。その一方で、日本側がそうした日本への留学を夢見る優秀な学生をどのように受入れていくのかについては、まだ課題が多い。

日本に来て、学んで、そして学んだことをモンゴルで活かす、こうした人材育成に、このスピーチコンテストが少しでも役に立てるのであれば、うれしい限りである。

第一回目のコンテストが終わってひとつきが過ぎ去ったが、来年 2020 年にも同じごろにコンテストが開催する予定である。

2019 年 5 月末日

日本とモンゴルの架け橋
2019 第1回日本語スピーチコンテスト

編集：広島大学モンゴル研究センター
佐藤暢治（広島大学）
Tsedendamba AMGALAN（ウランバートル国立大学）
Surenjav OYUNZUL

発行：2019年6月15日

印刷：株式会社ニシキプリント